



—東地中海地域ニュース—

イスラエル：対パレスチナ間接和平交渉に向けた反応

(3月4日付現地各紙)

3月3日にカイロで開催されたアラブ連盟和平フォローアップ委員会において、イスラエル・パレスチナ間接和平交渉の実施が同意されたことに対するイスラエル側の反応および今後の米国高官の現地訪問に関し、4日付イスラエル各紙は下記のように報道している。

1. 3月3日、ネタニヤフ首相は、クネセット（国会）において、「間接交渉開始の機が熟したようである。国際社会は、イスラエル政権の和平への意欲を理解するであろう」と述べた。
2. 6日夕、予定を繰り上げてミッチェル米國中東和平担当特使が当地に到着し、ネタニヤフ首相およびアッバース PA 大統領とそれぞれ直接会談して最終的な確認を行った後、来週初め、米国の仲介による間接交渉の再開を発表する予定。同交渉は、イスラエル及びパレスチナの代表は直接顔を合わせず、ミッチェル特使がエルサレムとラマツラの間を往復する。
3. 間接交渉は、直接交渉に向けた地ならしとして行われ、直接交渉の進め方やアジェンダについて詰める模様。
4. 3日にカイロで開催されたアラブ連盟の会議では、間接交渉の開催期間は4カ月と明言しているが、時間制限は設定されていない。イスラエルでは、間接交渉を最短で終了し、直接交渉に移行したいとの声があがっていた。
5. 2日夕、ネタニヤフ首相はムバーラク・エジプト大統領に、交渉の展望を電話で伝えた。同首相府は、同大統領が国家遺産保護計画に「マクペラの洞窟」及び「ラヘル墓」を加えたことで、ネタニヤフ首相を叱責したとの一部報道を否定した。
6. 8日午後、バイデン米国副大統領はイスラエルに到着し、11日まで滞在する。同副大統領は滞在中、ペレス大統領、ネタニヤフ首相、アッバース PA 大統領等と会談するほか、テルアビブ大学で講演する予定となっており、あるイスラエル政府高官は、同講演会で同副大統領が外交的に重要なメッセージを発する予定と述べている。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799